

福島原発と全国的な自粛  
 が大きな影を落としていま  
 す。日光東照宮では、震災後  
 の20日間で観光客が95%減と  
 なりました。被災地への援助  
 はしっかりとやるが、経済活動  
 も低下させないというメリハ  
 リが大事だと思えます。

今から16年前、阪神・淡路  
 大震災の折、13名の子供たち  
 が神戸の被災地から鳥羽市へ  
 ホームステイのため訪れたこ  
 とがありました。子供たちは、  
 2か月程、鳥羽へ留まりました。  
 「困った時はお互いさま」  
 の考えのもと、各地から同じ  
 ようにこどもたち受け入れの  
 申し出を被災地へ向けて行い  
 ました。その時の経験を生か  
 し、今回も被災され困ってい  
 る人たちを市民がボランティア  
 で受け入れ、ホームステイ

木田市長の  
 ど〜んと  
 コミュニケーション  
 vol.66  
 鳥羽市でホームステイしませんか

してらおうという活動が始  
 まりました。  
 日本中で多くの支援の手が  
 差しのべられています。鳥  
 羽市が考えていることは避難  
 所や体育館ではなく、個人の  
 家で受け入れるということ  
 です。  
 プライベートが守られ、の  
 んびりと家族的な雰囲気の中  
 で心身のいやしがはかれる  
 のではないのでしょうか。  
 これらの考えを現地に伝える  
 ために、また、今後の防災  
 のために、市の防災対策室職  
 員とともに塩釜市と南三陸町  
 へ向かいました。高さ十数メ  
 ートルの津波に襲われた惨状  
 は、テレビカメラの映像以上  
 に迫力がありました。南三陸  
 町の佐藤町長は、「防災対策庁  
 舎のアンテナにつかまって、

命拾いをしました。」と笑っ  
 ておられました。実際にはま  
 さに地獄絵であったらうと  
 感じました。  
 わたしたちの申し出に対し  
 ては、「三重は遠すぎる」とい  
 う反応が強いと感じました  
 が、「移動は一日で終わるの  
 で、遠慮せずに、親戚が出来  
 たつもりで来てください」と  
 話をしてきました。  
 時を同じくして、鳥羽青年  
 会議所の中村理事長と阿部専  
 務がタンクローリーを運転し  
 て、はるばると灯油三千里ッ  
 トルと軽油千里ットルを被災  
 地に届けるため現地まで来て  
 くださいました。

塩釜市長をはじめ、みなさ  
 ん大変喜んで、感謝をしてく  
 ださいました。鳥羽JCのみ  
 なさんにお礼を申し上げたい  
 と思います。避難所のみなさ  
 んにも、鳥羽から持つていっ  
 たお菓子を配り、激励をした  
 ところ、拍手が起こり、嬉し  
 そうな表情が印象的でした。  
 鳥羽の取り組みがどのよう  
 に実現していくかまだわかり  
 ませんが、これからも市民の  
 みなさんのご理解とご協力を  
 お願いいたします。

人権文化の  
 花を咲かせよう  
 Vol.106

余命わずかなシングルマ  
 ザーが、一人残されるわが子  
 への思いを載せた新聞記事を  
 先日目にしました。  
 自分の残された時間を天秤  
 にかけてかのように、これか  
 ら先の人生を自分一人で歩い  
 ていかねばならないわが子へ  
 の強い思いが感じられ、非常  
 に印象に残りました。  
 母親は、強いこどもに育つ  
 よう、どんなつらいことも、  
 哀しいことも、自分一人の力  
 で乗り越えることのできる子  
 にしたいという思いから、日  
 ごろから厳しくこどもには接

しているそうです。  
 この母親に限らず、誰しも  
 自分のこどもには自分の力で  
 何事にも立ち向かい、乗り越  
 えていってほしいと願うもの  
 です。  
 しかし、その思いは一人き  
 りで生きていくことと、少し  
 違う意味があるように感じま  
 した。  
 確かに何か困難があった場  
 合、それを乗り越えていくの  
 は自分自身であると思いま  
 す。その周囲にはその人をサ  
 ポートしてくれる人が必ずい  
 るはず。  
 何でも自分ひとりでやって  
 いくことを教えていくことも  
 大切ではありませんが、そうい  
 った場面でも必ず誰かが支  
 えてくれる、そうだった気  
 持ちは同時に伝えていくこと  
 もこれからは、大切であると  
 改めて考えさせられました。

